

大阪教育大学における教員養成フラッグシップ大学 3年目評価結果について

令和7年2月18日

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成フラッグシップ大学推進委員会

1. 3年目評価の結果

A 評価：順調に進んでおり、現行の取組を継続することによって構想を達成でき、今後も発展することが期待できる。

2. 3年目評価における4大学に係る総論

- 教員養成フラッグシップ大学に指定され3年を迎える。4大学ともにそれぞれの計画に基づいて、状況や特長を活かした個性溢れる教員養成フラッグシップ大学構想をより一層明確にし、先導的・革新的な教員養成プログラムの開発・実装・評価・改善など、多種多様な取組を着実に実施して成果を出しつつある。
- また、令和6年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会においては、教師人材の確保や養成段階で学ぶべき内容等の観点より教職課程の在り方の見直しの審議にあたって、特に学部における「現行の教職科目から減ずる科目」及び「先導的・革新的な教員養成プログラム（特に新設した授業科目の内容）」について、教員養成フラッグシップ4大学が発表を行った。
- 今後は、3年間の成果とそこから見えてきた課題の解決に取り組むとともに、4大学の取り組みを組み合わせた活用展開が期待される。そのため、引き続き、4大学間での横の連携を進めながら、教職課程の在り方等の検討に資するような成果発信が求められる。また、広くどの大学でも実装可能かという点からも、各連携大学等との議論や協議を行う機会も持っていたきたい。
- 現状に油断することなく、これまでの取組の効果検証等、更なるスピード感をもって、構想の実現と展開をはかられたい。その際、全国展開に資するような共通の

汎用的な部分と各フラッグシップ大学の個性的な部分の両者を追究するような、画一的ではない総合的な「教員養成フラッグシップ大学」を模索しつつ、減じる科目の考え方やカリキュラム開発等の実現プロセスを含め、展開発信していくことを期待したい。

3. 3年目評価における大阪教育大学に係る総論

- フラッグシップ構想により育成する3つの力と6つのディプロマポリシーに対応した「ダイバーシティの観点に基づく三層省察型カリキュラム」については、新規の魅力的な科目群のみならず、それらが有機的に接続し、互いに高めるような構造になったことが評価できる。また、フラッグシップ科目について、実際の学生の評価とともにカリキュラム開発の展開がなされている点、減じる科目との比較検討がしっかりなされている点も評価できる。引き続き革新性・先導性をより一層明確にしつつ多角的な検証を期待したい。
- みらい教育共創館を拠点とした産官学連携研究ネットワークをベースとして、「問い続け、寄り添える教師」を育てる教職プログラムを開発、展開する構想が明確になり、多様な取組も具体化されて着実に進みつつある。
- OZONE-EDU など、現場ニーズへの対応のみならず、フラッグシップ大学の理念を反映させた取組が行われている。様々な先進的でデジタル技術の活用に関する取組が見られる点は評価できる。
- 他大学への普及拡大の必要性から大学教員の学習観・授業観の転換を促すFDシステムの構築と教育版URA人材の養成には大いに期待したい。
- 「ダイバーシティ」「三層省察型カリキュラム」「みらい教育共創館」など各種の取組・要素が、全体としてどういう関連性・相乗効果があり、教育に貢献しているのかという点が熟慮・整理されると良い。